



有磯海序

しと此の如く讀しき思ふは此の如く
ありし所をよみよとゆへに吾人の如く
子細志つたにゆへに瀨橋乃過りあり
うへとありしきんよるを風雅の
里の如く念う向ふ此の如く
家事しと我ともは
是の如くこれ文吏官は



たつとくに市塵を離れ
便たる人
平生を身衣風毛に
大虚よりらん中
の事

いふよ思ふもの
風物をあつた
層と志のき果
其法輪覇橋よ
と芭蕉巻の
官袴

乃才我をぬら
延もも膝暖
床の穢を悲
糸を費し
は及深
ら
一年越の幽
山路乃

狐島の風をんを暁とまづいこと
入魚を耳持するよまふこと
辰已あかり信棹一舟を
まゝさしめく早稲の香粒一舟
をさるるつれ傳いと年を
て浪化風人の吟鬚を此のよ
まづいことあつれ浦山頭を
けまをういことあつれ

夕の風は移り流るるなりて
ぬ趣乃ほりていこと其
のいこといこといこと
らまじりていこといこと
あつれいこといこといこと
たりぬらふ比路の去来を
まづいこといこといこと
山陰をいこといこといこと

いかにひらきわたるるか
しほのつらきよもあはれ
けしきよのしほのつらきよもあはれ
つらきよのしほのつらきよもあはれ
あはれつらきよのしほのつらきよもあはれ
あはれつらきよのしほのつらきよもあはれ

頼富塾衲丈艸謾書

有儀海

あまきれまに記

早稲の末のや分入るる海

芭蕉

いよいよえんをたぬまのつらきよもあはれ

つらきよのしほのつらきよもあはれ

あはれつらきよのしほのつらきよもあはれ

つらきよのしほのつらきよもあはれ

あはれつらきよのしほのつらきよもあはれ

あはれつらきよのしほのつらきよもあはれ

浪化

早稲の香やまことの浦に放蓮弱

ませぬやまのいぬさくさく屋の舟 丈州

わさのや田中才屋乃人お入 曲翠

こせのや田中を切らりと弦 支考

道徳翁のいへうへうへうを
活かにさうり

先入や山やめの秋をわさるの記 惟然

り人や門田結まをの靱つもの 之道

回陸へ早稲うる志まの日記 正香

早稲や人かゝるおのふのあゝ 去来

をのうらやま稲つゝまのの垢 五中 風

刈入てまのあまさりやまつら 同 嵐青

まよなるまの稲の祝や煙露入 同 其継

早稲の向ま刈すまのちま 同 林紅

山の水やまの初秋の香葉散 句空

病中

秋の蠅うへむや 足下 カ、 秋之坊

すくくと西風印之橋のつら陽和イカ

七夕や梅をけしむらめは色雀

酒をりて酔くて酒の心ほしへ去来

酒をりて酔くて酒の心ほしへサカ文州

酒をりて酔くて酒の心ほしへサカ荒雀

玉柳のしと女のほるすめり小倉山僧閑夕

花をりて酔くて酒の心ほしへ京風國

足寄るるあはれりきりきり

穀をりて酔くて酒の心ほしへ玉祭り 芭蕉

あはれ片わきり

うきやあめうきうき卓袋イカ

三浦よ九十と酔やもろもろしイカし刃

こぼしてはけきり切籠イカ蝉嵐

村とくにんをてやあの一子イカ刈泉

明る夜をうきてはあや下よイカ野明

地よの流地よほりたイカ蝶とり 曲イカ翠

縁まのけをりてれく立やれ撲ま

長崎 錦水

電の心を牛めく夜あけけ

嵐青

電や門乃茶よる物より

大坂 伽香

朝のふれをのらきりや縮光

サカ 為有

あさるほやちのたりの焼けり

世 昌房

葦や指の垣の遠あより

秋風

あまのねやぬりも堀のそと

越中 平交

なまらうと木槿のおれれれ

土芳

女中ふそめをる事のさうり

野童

若れ端のりりともやめり

イカ 尾頭

弱骨よ出通ふお人のすま

野明

花鳥たけものいぢりあきのぬ

世 開河

新枕をよりの流考ら

ふよよと遠志をちりけ

イカ 車来

比丘定

かすこくこれちんはし行の
つめた織りのまねひ

うのまなま

はらうとあめり

野うらをを二舞う老いもも落しぬ 万里

春の中張るるもゆんまゆ 胡故

鶏の尾よつゝきさり 柳あし 荆口

芭蕉菴のうす

こまら 春の月さやらり 柳 菟隣

初らりや比良て遊つゝ悦意毎 木節

ゆらりのなれつゝとや真乃棚 惟然

とらると此曙もや 秋乃水 越中 平水

木跡の入まらりや柔やゆの雲 文州

日當よせとらりやあすうつ 正秀乃

了まよふとくらきてたけつゝ 卧高

雲の種れしと入るうつ 惟然

新もたうとくらあふし 正秀乃

去る人よたうとけし 惟然

大宰守を過つた女もあはれ
集りて稲こもる中にもあはれ

一衣ちのゆらりてぬ 長崎 卯七

うらな

うさく人の袖引やうらなれ

奈良の麻言 ふはよりて

門立のまきやうらなれ 其角

春のまきを便し糸もや麻のまき 探志

啼しして目まきしうらなれ 文州

いとんまきしうらなれ 半銭

うらなれはははらうらなれ 彦根 改村

西塔より宿し二句

明星や瓦上も宿し志のまき 曲翠

いとまきをふらりとたをすや麻の 蘇葉

秋日游小倉山同詠麻の角

振あけく麻のまきや麻の角 野明

諸角に月まきまき出麻の 来儿

まきまきや角まきまき志のまき 荒荏

たまきまき角まきまきや女麻の 閑夕

151

飛鷹の角にまうらうすまふれ 為有
臥せりや小秋よまうらう赤の角 去来
あつてもも志のまうけり縮のふ ^世 游刀
禪つのはまさしり 縮乃れ ^{大坂} 芝栢
お揃ふや縮の田つれさんさうり ^{尾島} 露路川

なま月の末大井川を
わらわら

いつに縮をて瀬や大井川 其角
狼のこみ比んやう縮のれ 支考

縮村は露をうらみするまふれ 孤屋
裾といふ名もまうらうやまの門 史邦

嵐筒を
わらわら

ちよきやうて来いほかりいを在 智月
粟畑は真まてあつても入目うれ ^{イセ} 空芽
暮待くまうらうをちりそまの鏡 ^世 雨汀
狐火の〜〜〜ゆるやう〜〜れふ 嵐栢
口取も咳らまうらう也弱むらへ 曲翠

京の上の宮の御殿のまじりたるは 浪化

一書よわしし我こりす野ふりぬ 許六

ふのむしれ家とらうしむる神分は 向空

日より能たさしとよふの御ふぬ 小松 浪化

とよのそふたふらひて野ふりぬ 長井キ 塵生

風の根をこりしふらり舞の宮 三 卯七

電の御まじり物ふ三日の月 三 文鳥

清きるや流浪のうへに舞乃る雲 惟賢

何賀らうか
あうらう

名月やのらんとるを綿もはけ 芭蕉

明月に桂葉のまじりや田代もまじり 同

おしよもつとて登りし月の宮 丈艸

名月やおふとをあし乃つて舞 江戸 太夫

らいつりやふらりたせむの橋 彦根者 如元

名月やふらりて舞のまじり 日 正干

明月やおふとをまじり名の上 長井キ 野青

目よりうきあわれけのちも月見 イカ 賞山

賑を内をおくまの月見 イカ 利牛

名月や平家女のかうり イカ 木節

明月や里緒白の青白業 大律 木枝

不破の宿り イカ

目利しつらむのちも月見 イカ 如行

明月や向への孫やうり イカ 去来

明月や家賃のかれ イカ 野馬

釣橋も呼かよるの月見 イカ 残香

明月や巧みにまの イカ 九柳

名月よ イカ 野童

仕舞も イカ 山蜂

明月や イカ 浪化

月影よ イカ 官城氏 江島岡平村

豆蔵や イカ 牡年 長壽

あつ イカ 智月

やほひりり梅のいつられ角草

野童

正秀の方へまうりまうりにおろ
謂りともおろく梅引しせし昔
に梅よりまうりあふまうりまうり
年よりまうりまうりまうり

宵れり梅と梅くらうり

卧高

〜

あんをばしりりりりり

正秀

ま梅より梅より梅より

風琴

かすのあは梅より梅より

文州

生葉をらりりりりりり

千川

ふれりりりりりりりり

依水

梅よりりりりりりりり

風國

すしりりりりりりりり

森妖

よしりりりりりりりり

兎觥

燈明ふりりりりりりり

蘓葉

まうりりりりりりりり

文州

菜留のりりりりりりり

李由

菊の香にちりや山家の右上月 北彦

香も綿の香はちりや葉のふ 支考

擁くちりぬは花や葉れ花 李由

葉の記らんよもさめらうりよ 可南京女

答はよのうもさめらうりよ 嵐雪

丸りに菊をとりよもさめらうりよ 待彼

松茸や菊をとりよもさめらうりよ 為有

このころに遷居せしむるに
よもさめらうりよ

うらむしきもさめらうりよ 之道

あつたもさめらうりよ 八条江戸

言やとれ火燈のほしやほの月 斜嶺

雪の香や月うらむらふ岩れ向 卧高

彦山よ給同國五百らんを
侍りて樵のかみひくも
りよとてうらむらふ
まにやの積りよ

秋の夕一日うらむらふ 田上尼長井

うらむらふ

數十軍をこぎし嶺をりぬる谷 長壽 魯町
浩劫やる處ゆのしらけし路 呂 呂風
吾中にやぬらゆら 呂 呂國
けぢよき 呂 呂年
行秋をぬらゆら 呂 史邦

冬

冬に 呂 荆口
い 呂 正秀

呂

宇治本懐京へ 呂 曲翠

何れ 呂 之道

培 呂 如行

やのよの海をわらしく可也
文州

日枝もくしのほま可也のり舟
李由

申るめくはしちて可也
浪化

しきやまの小神を吹く
去来

ゆきくとるをちりし可也
卧高

平ほりよ田かやめし可也
風國

門火たきたまにや可也
閑夕

蜂まの持し可也
越中
平水

五急はももあしけの歌
露路川

芭蕉翁の七日くもくあり
あしれとけさるる小偶
てそらとてままも
とへか

胡蝶や茶碗のほ乃とそり錦
文州

ふ

糸糸や人參つんそ墓より
去来

るの息ほのよきしけの歌
民丁

おのくと裏人しりる
江戸
素龍

忍地

をくふふふか〜たり地和 坂 春舟

雑水のふ〜た〜神〜 越中 紅朝

け里れ牛れあ〜きけ神〜 越中 木枝

こ〜や廊下れ志〜の村雀 越中 夕兆

ら〜や〜井〜ぬ堂の内 林紅

木枯の又め〜や蟻た〜り 其継

色意翁の送葬よまほひ結ん合
さ〜りよ曾ち〜い〜

こ〜り〜れ鹿吹〜〜い〜す〜 野咽

風や田より田に長〜水のゆ 彦根 木導

こ〜〜や咽望ぬま〜〜三保の松 空茶

ら〜れ〜木のふれあ〜〜社あ〜 八桑

ぬさ〜ら〜で〜め〜れ〜や石南里 イカ 氷固

き〜よち〜ら〜〜あ〜木の葉や蝶の 聖咽

あ〜〜山猿の〜〜山栗の〜 小五郎

らん栗の〜〜い合〜り穴達た〜り 牡年

了〜ら〜る〜あ〜ら〜ぬの〜 曲翠

忍地

忍地

おもしろく砂よすりぬるが イカ 萩子

枯あしや何よあさる塔ナ 彦根 馬沸

丸なりし月よ嬉しき十夜外 越中 壽仙

小倉山常寂寺

山合海やあまの月よ去月の友 荒雀

開山忌とわりのあまのあひあひ 浪化

夷海をぬ軒のてあさぬふ 曲翠

大島く先よしとせぬふの 海 嵐青

芭蕉翁の薙波よとやと後
わくまて休んより夜舟はり

よに新くそ地の眉や冬より 去来

くくくくくくや廣るれ書も冬にり 怒風

山灰の火よ並ぬきんこれいなり 木枝

冬は終り灰一俵をらるるれ 滄波

炭うらもつとやいぬあふれ 湯布

口焼や吹草よあめ酒乃らん 竹戸

終りのほりくち社かきり
くくくくくくくくくくく

こりらういふまゝ
のうらみ

口切や海行客の我輩りうら
らら切やこりらういふまゝ
者くうらうらとわらわら
埋史は根より痛むらうら
埋史やうらうらを道にまゐり
おえくうらうらうら
暖くやうらうらうら
色蕉
平交
支考
昌房
公道
海動
校風

難水よおのこもく軒のまゝ
孫と鳥式も田ふうらうら
新田ふ水もうらうら
白丁は根よ吹くうらうら
こりらういふまゝ
こりらういふまゝ
初音も尾名ほらうらうら
こりらういふまゝ
色蕉
平交
支考
昌房
公道
海動
校風

色蓮翁の住持ありしと

わが住持をあらうりたりと

くろくちやまの山で焚火の煙

初雪や小坂よりゆく人

く川雪や奥の洞窟に落ち

目枝一つもよきとて

川を流す水もさし

らゝとて是等の麻や

雪は余もつらとて

雪は後もゆきとて

あまゆりや堤より

あ川の雪をさら

く蛙の目つらとて

鴨の背よりよ

うりよりの雪を

く雪はあまゆり

はく雪はあまゆり

夏橋

配力

李由

乙羽

臥言

魯町

此篇

奈え

合紙

大坂 全紙

細石

正考

支紙

物然

祐南

土等

ほろつりてちまいてあまら筆の巻 イセ 笈本

まじりていふはちりてまじりて 卯七

来氣儀ゆりてまじりてまじりて 老根 胡風

まじりて片隅さびり半れりす 史州

ハけさやまじりて有るはく入る猫 日 堀江氏 書

應くまじりてまじりてまじりて 志良

大書も漢のまじりてまじりて 浪化

まじりてまじりてまじりてまじりて 四 物志

舟築地のまじりてまじりてまじりて
まじりて如意の嶽まじりて
月の南門まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりて

うまじりてまじりてまじりて 嵐雪

まじりてまじりてまじりて 支考

まじりてまじりてまじりて 荒花

まじりてまじりてまじりて 羽列 不玉

あまじりてまじりてまじりて 許六

まじりてまじりてまじりて 浪化

小坊のよと下きたり水仙花 尾上 素覽

寒菊の好もこのうく日和 尾上 嵐舟

目の縁よある大板や一むら 許六

とくはや口をけし風の色こ 子珊

河つやみぬあまのり 尾上 子継

河純流ふ水のよと下川原 尾上 子角

粥とく 尾上 いふあといふ

いふあといふ

蠅ほりの地と思へと大師 尾上 白雲

尾上村の住 ちりちり

うゝふいて落穂をたぐや大師 尾上 可南

肝煎れよよとねきちり 尾上 曲翠

うり金や友よやくれと巻れ入 尾上 風不

乃の猫のぬのつとみ 尾上 後化

大石の兼金や ちりちり 尾上 を三人 尾上 のりちりちり 尾上 のりちり

ふるる 尾上 江原 尾上 像 尾上 の 尾上 さ 尾上 め 尾上 は 尾上 じ 尾上 さ 尾上 聖 尾上 坡

こころしきるをこそ大なる
らりて

まきくれば鼻のさし
利半

まじりに取つて老のちじま
聖明

身をたさて机よむふさし
舎屋

まらあつて鏡のうほらさし
丸

うらふにまらしきふさし
点

いこり侍り此洛の鴨川の道
り積り

ゆ垢離のあふさし
杜良

まう鴨のつてへまぬのえ
林

筑平江やうらふをのうか
反村

白瀬やふ鳥あつてあまの
巖

塩焼の夜伽よたのや瀬
川

あまのつて踊のはまや小
左次

あまのつてもろれ鷹返もつ
来

狼のしつと喰へて新
壱

雛子持尾よせまも師走の
壱

鉄湯の胡ふけきよ記原走のし 怪然

姥拂や二階をゆりまゐるこ イカ 百重

すしきたうら 彦根 黄逸

姥掃のちりたうら 外 東那

まろくまに寝るまんと
いふ人のまゝとて

春うけく 三 輪のあやう 三 唯然

牛乳子の角や待 三 忘れ 荆は

常季いやく 三 月よう 三 袋持 浪化

は句のあやう 三 白地り

ゆりまゐる

雪人よふ 三 色

春

しつとりと涙の枯木の葉をり

秋風

若くは風も清くはき梅はふ

土芳

瘦くは香にさく梅の血をり

去来

梅くはくみわたり梅ままれ

向空

梅く香まらつて及や折の綱

卧高

伊賀の梅はたうはとちのあり
つるくせきまらちり

春のうらみはなほあめ梅のほろ

色蕉

梅のや月夜をのぞくはたけり

浪化

しづかきや音なきしる軒の静

越中
夕里

掃切て梅の香なきしらうまれ

涼葉

梅のやふあをゆるる村の口

呂風

志まへきねあもつともしえ此ふ

如行

笠ぬききく鳥はよるる押梅の

素覽

よ水場はさるるけりて梅のふ

嵐青

梅さくやまはるるしり此鈴ら

荆口

ちりちり梅のやうさうの里の梅ふ

許六

竹篔簹^戸のけりらと梅の花

丈艸

ちりしをけりぬしんれまは

菴隣

七種や唱^音あはるる口りら

北枝

たうへま眼よあめめしり

我峯

敷くハ女房乃てあめめしり

風睡

雪のふらりもあめめしり

微房

別支考

早鳥や庭をものしりて始ふ

計徒イロ

化振もも果やたき出づ猫の

史邦

猫の互に始ゆるぬ斗なり

風國

文もぬを水の心猫乃別れ

川支

背戸申のさえん入りと回に

支州

是もそりしりてしは乃ゆま

支考

お鳥や酒の史乃名れし

越中
路健

山鳥とふねの残る機野れ

洞木イカ

やもとりれ樵を化とるるれ

支考

曉の雉るにさめらり猿はるほ

關河

やまうれ夕東にやきくはる

空芽

雉子たのやほろくはけのよ

車素イカ

子をつまむ岩よぬりし

魚光イカ

けつくりと雉子つゝなるや木の

飛路川イカ

源平の古戰場をよる

兵庫

イカ

便船やちを存のあも 史邦

口又人をちに入とや 千川

志しとて越遊へけ 万里

地しつらけあれらの 卯七

いさつりいそん

厚れお勝しを何 支考

波先やから白れ水 猿錐

勝した引や廻場の 乙弱

那つるやあしらの 李由

了れ尾小陽炎ちる 惟然

うけりしや二言らり 其継

海炎やあしあし 平水

陽炎れもんで田 曲翠

老鏡

九月より春まで 風麥

つんゆりや里に植 良品

女の尾よ椿をよみてさげなかり 利半

大佛やよもひのたつたに入りの 不玉

春のぬやよもひのたつたに真をよ 正秀

水風呂に茶をよもひのたつたに 曲翠

鶴鶴の尾よたつたにさつたに 麻三

置土や通よもひのたつたに 子祐

茹たふよもひのたつたに 壺蛙

いのちのたつたにぬりぬり 野明

女の尾よとらり白をよの
よもひのたつたに

白更やもて水らん飛鳥川 白更

とらりぬりぬりぬりぬりぬり

よもひのたつたにぬりぬりぬり 曲翠

よもひのたつたにぬりぬりぬり 本導

よもひのたつたにぬりぬりぬり 残香

よもひのたつたにぬりぬりぬり 林紅

よもひのたつたにぬりぬりぬり 配力

市中和まにけむいの月り イセ 園友

花鳥共をにうくやいのほろ 五辛 土芳

あしみの雉とつるや雛あひ イカ 宇白

燧うもる壁ほのくく紙雛 雪芝

土器のくもはらくせきふ イカ 其繼

鶏のおもひやまれし イカ 残香

菜白や焼くりあふきの船 イカ 浪化

もれ物よせつる柳の志あへし 芭蕉

姐乃鬘をたうけられまくれ 曲翠

五六本うりてまゝの柳られ 去来

をくもくたもめる程の柳外 探芝

待あよ小せい雨のあゝるか 松風

梅をくちかきと神くくろよせぬや
あはれぬらふのまれらるや

つるよ雛あひもくく風の葉 芭蕉

片之鹿を名よけたりまれし 丈艸

一本をころりくともれえられ 浪化

花見のもくせぬ里のたれお 去来
らうつまたありとくわうくあは 正秀
陰ゆゑ喰入やりのもれは 嵐蘭古

寺申花

小坊まに志うくはくのく花は 其継
ゆりはまよふのまのあはれ 来儿
あつへのこまもやきりふらもり 史邦
物ニハ夜もあうへおくあめを 岱水

花のちいせをこくひ乃入日れ 卯七
るる追くあつとちす鷹お 怒風
うゝ家やあのはらうゝ門の寝 風睡
ふらりり二日やねぬお東お 市徳家農十二才
は封切の庭下の口やいとまを 支老

東叡山

ハツの心ははらわつみ 其角

日枝のやうに
のたうく

悪僧のりいもわもや山はらるる

野明

三河のま取てるもや、まきこく

狐屋

世をよらまらりぬきとけ種
ま長らわれはは後考をうへて即りて

しきまのやとらく坂の尾も

尾頭

うへ

吾のゆにさきまんつすも種

示蜂

山吹やぬくとんじり種上

石推

やいぬまに牛の尾もさるる

萩子

あふ及志はりくくもや松のふら 為有

やうらに濁らる飯の雨志く 木枝

種めよららるとなるや藤のふ 荒雀

ふら山草ももふぬは 文鳥

梅、うへ、ふ、言、の、果、を、さ、ら、へ

ふらよのふもくくを揚るや 素顰

三月盡

何番れもあつとくもや春のそ 野童

其

けしきよはなほまにほさん川じり
文艸

町多二つのはつもとほ乃景
惟繁

けしきよはなほまにほさん川じり
許六

頭の子へよむせよや唐所の町多
支考

啼こえよ懐あらんほらもまな
北枝

竹のものをしりてみりし町多
李由

夢のてはめあやほくまの 之道

木海さくもにうらうらう何ぞ 壽仙

句空は師の山ちよまわりの
をいふかたし

巨尾魚こころのいひなき時鳥 浪化

へ

ほろろいもにふよの思もなかり 句空

雀よりやとまじすこやえん 雪世

衣之難ゆらわあまにきり 之道

雪に糊らふりらりらるるの 呂風

竹の子やほろもちのまはあがり 朱迪

よりのこち皮しむらう甲戌者 智月

許六のいふかたよりやうくくく
とらひいふかたより

竹の子れまほしやんを伝日殺 李由

へ

糸の子はらうを籠や一夜のまは 許六

双をあげて笑うらりらりけのよ 斜山嶺

あけぬや地ゆい切けのま 左次

しまにのり魚やりやあ風 卓袋

芍薬や序路をいけの真のあ 支老

艸むしやころろくよ百合の純 宗比

人へ川さきまていりちりて
別のりまをいこく

麦此種を便よつむ別れ 色蕉

むと秋と方のまをころろや 風蕎

疱瘡ももつてあつちりちり 浪化

麥秋やらんほくとはの淵の上 和求

麦よりととをいよせちり地蔵堂 平文

麦笛やふいふふよる師子ら 魚目

夕雲花鳴やむ麦のころんや 野童

一朝と陣とつあちり麦はさり 平水

元禄七年久しく後より
祭のゆきをいれをい

酔都よ奏とつらむ 白らふれ 去来

奈良の万僧供養の福を祈
ほうりたに二夜あつちり

こころはつらきほどへき料はもたさ
きん柳のしるしは紙よ名やわきし
ちねのしるしは出づりなり

鴉夜や木匠のたまきにてはり

惟然

あやめんきよき師のしるしは

木枝

大井川水はく待田塚中良のしるし
よきしるしなり

はらわきのを吹やせ大井川

芭蕉

しるしのしるし

せみとれや柳よふもぬ十圍子

左柳

みよめよきしあつしるし

里東

まへよきのしるしやみしるし

楚舟

針しるしはしるしは

示蜂

鳩の巢や管よりしるし

荆口

たつやねしるしは

鹿也

顔つしるしは

苔蘚

水くらしは

回息

蚊のしるしは

南文

大井川のしるしは
しるしは

水鶴たのこく人のいへやや泊り 色雀
 ころききまきまらうらうらくいな 玄虎
 うらうらうらうらうらうらうら 半残
 水れたくや愈信したる岩の上 去来
 ようきや日れうらうら假の巻 錦水
 片壁うらうらうらうらうら 蛙
 蚊のうらうらうらうらうら 李由
 蚊をり火やまき物うらうらうら 許六

訪農家

の水乃下うらうらうらうら 野明



客うらうらうらうらうら 為有

書うらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら 北玄
 かりくと涼あなうらうらうら 不玉
 うらうらうらうらうらうら 車来

揚つゝのさうはた本や鱧のや

史邦

月のけをいひくく鱧のはいふ

近習

苦しきや昔もあつにち牛の鱧

丸節

可幅のいんさならき東京は互

狐屋

あよりいゝ金銀のあやまの亭

飛隣

はしきまてとらぬ其れははは

野坡

白代ははあつてはる鱧の魚

正秀

時よの長言はるやいふの鱧

白空

陣うちや鱧のたのひを地すま

子珊

あふ坂やいゝはあ合とるんのも

智月

あつてはあつたあつてはあ

乙羽

あつてはあつたあつてはあ

此筋

あつてはあつたあつてはあ

支考

あつてはあつたあつてはあ

夕兆

あつてはあつたあつてはあ

正秀

あつてはあつたあつてはあ

游刀

水袖のしほりうきあつさ カ 雪芝

了の月影みづらにうきあはさ カ 牧童

蠅のまじりもろくあつさ カ 野明

白砂よ花あしりくあつさ カ 遅望

立合く牛くさのあはさ カ 探芝

暑き目やうきあはさ カ 怨風

上下とみゆる枕はあはさ カ 魚目

ゆつくと新もろくあはさ カ 遊系

うきしんも枕敷之行ぬ人 イカ 卯七

夕立よみらるあや竹乃皮 イカ 沢雉

白母や山伏軍に入 イカ 万宇

ゆきさやうらやあはさ イカ 聖翠

まろり一夜の寝 イカ 山紫

ちき鐘のしほりあつさ イカ 北枝

暑きおや井戸にぬた イカ 萩子

あつさ イカ 裾道

夕魚やあはれこれよよのかりし下 我峯
 けよふ海をくわいひるやまはしよ 卧高
 夕影よらんやうしてあふり 色蕉
 日けりれふやよもいさぎ下 吞舟
 けふれいよふしけりけりんか 一鷺イカ
 くらりらにいらる喰やり草花 史邦
 ちよひをよ一掃つくはる所 空芽
 儀きいをよもよもよの目おれ 惟繁

淀川畫舟

浦乃うらうらにえなき核くれ 風蕎
 かきしれあふりそもれ二系カ 浪化
 種麻やうらうらよけりやけ島 同
 や移よよの顔志うらや麻双巾 壽仙
 ねをよも田多の敷よひり 如行
 川狩や村をほりぬれ敷の腰 嵐青
 了柄物を岩割ゆりぬれ 野在

先子此書のりり清ぬる
猿轡
こゝろあしはれ白まよる清ぬる
許六

老慵

吾志も縁迄にふるすも
衣
葛布布きまこころはや涼
賞山
嫁つても涼やまのまよれと
江戸
こまきまの包丁もし丁の縁
其継
すしはやおどてんをゆる生縮
卧高

風とる膳あしはれ盤
洞木
虫蟻のまをねくちや夕すこ
仙杖
すしはやうりくちハ行
里東
里の子ねま地のうすすれ
可乎
砂川なまわらうあうぬ涼か
土方
ましはや水の流れ島たわ
蘊葉
涼さや八人代ミナリの田舎まよこ
荒荏
はらすれくちまよる
大州

紀の年代を通ずるに於ては、
未合のありと云ひしが、
いふに、
のらも、
いふに、
のらも、

友代やしらも門よきすし
去来

暮まのや白地扇の月あは
良品

町礼や袴のしるに之解は
曲翠

水さしもの書たしあも
望翠

水さし月をさし
霊椿

八重の山は峻嶺を垂るのみ
其角

ありし海集撰たすいなる時入白も
あつちまのしるもたすいなる祝ス

就馬乃子や野糸よめも有る海
去来

元禄八乙亥歳花老上旬

正竹書寫



記号番号 文学堂書店

42

TEL

361-5974

1991. 5. 25
¥ 25000

Handwritten calligraphy in cursive style. The characters include: 松 (Pine), 舟 (Boat), 馬 (Horse), 蝶 (Butterfly), 大 (Great), 大 (Great), 大 (Great), 大 (Great). There are also some smaller characters and a diamond-shaped seal in the upper right corner.

301-2314

廣

松

松

松

松

松

馬

大

大

大

大

大

大

